

新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード  
第2回会議 議事概要

- 1 日 時:令和4年8月22日(月)18:00~20:00
- 2 場 所:県庁6階第2特別会議室
- 3 出席者:  
(構成員)  
島田 勝也 座長、田名 毅 副座長、湊辺 美紀 構成員  
米須 義明 構成員、與那覇 正人 構成員、金城 武 構成員、  
幸田 すがよ 構成員、東盛 政行 構成員、屋比久 猛義 構成員  
(参考人)  
宮里 大八 沖縄市経済文化部観光スポーツ振興課主幹  
佐和田 勇人 沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課長  
(沖縄県)  
池田 竹州 副知事、島袋 芳敬 政策調整監、  
系数 公 保健医療部長、松永 享 商工労働部長、  
宮城 嗣吉 文化観光スポーツ部長  
高山 義浩 保健医療部感染症医療確保課主幹(医師)、  
佐々木 秀章 沖縄県医療コーディネーター
- 4 議 題:今後の社会・経済活動の方向性について  
「感染拡大期におけるイベント開催について」
- 5 主な意見  
別表のとおり

## 第2回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

## 各構成員からの意見

番号	区分	意見の内容
1	イベント開催についての認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きなイベントであるエイサー大会の延期を決めていただいたことは、医療界としては非常にほっとしたところであった。</li> <li>・ 延期していただいたことは、県民の協力と理解があったからだと考えており、感謝の気持ちを持つことは、医療界として重要であると思うので、機会を見て発言していきたい。</li> </ul>
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染者数の実態も分からなくなっている中で、イベント等に対して制約を続けるのは厳しいのではないか。それよりも徹底した対策をいかに講じるかということを議論した方がよいのではないか。</li> </ul>
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントでアルコールが悪だというふうに捉えられているが、これがなければエイサーも開催できたのではないか。</li> <li>・ アルコールが感染を拡大させるという医療の専門家の話もあるが、落とすところがないか医療の専門家の皆さんと議論させていただきたい。</li> </ul>
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染がボトムの時はどうやってイベントを開催するかということを高山先生、佐々木先生と協力していきながら、ポジティブにやっていきたい。</li> </ul>
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済を回すということは十分理解できるが、感染者が増えている中では、不特定多数が集まるイベントについては、参加人数を見ながら、延期、中止を検討していく必要があるのではないか。</li> </ul>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染拡大期にはイベントをやって欲しくないというのが本音。しかし、やらないことには経済は動かない。ただし、いつまでやらないでいるかと言われても、答えることができない。</li> </ul>
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済を回すために、イベントを開催することは重要。今は感染が拡大し、医療は逼迫しているので、全島エイサーまつりは、延期でよかったと思う。感染が収まってきたら、日頃の成果を発表できる場として、感染対策を心掛けて実施してもらいたい。</li> </ul>

## 第2回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

### 各構成員からの意見

番号	区分	意見の内容
8	イベント開催についての認識	・ てだこまつりでは、園児が参加する子どもエイサーがあるが、声を出さないように言ってもはしゃいでしまうので、今回も参加を断念した。来年には是非参加できることを願っている。
9		・ 大綱引きや那覇マラソンなどイベントについて、実行委員会と話し合った。祭りは地域の行事であり社会活動であることから、それを止めるのではなく、感染を抑えながら開催する方向で前向きに考えないと、今後社会が継続できなくなってしまう。
10		・ 感染が拡大し、イベントをやっていけない状況になれば、それなりの判断を行うが、何でも延期ではなく、どのような状況にあっても、社会活動が継続できる仕組みを考える必要がある。
11	開催にあたっての具体的な感染対策について	・ イベントの参加者は、必ず抗原検査やワクチン接種を行う。或いは人数制限など、徹底した中で、開催する方向で考えなければ、地域文化も廃れるし、子供たちの情操的な部分の教育も重要であり考慮しなければならない。
12		・ イベント開催にあたっては、主催者が、感染予防対策ができるのかということが大事である。アルコールを出さないのであれば、アルコールを出していないか、マスクは着用しているかなどのチェックを行いながら開催していく方向だと思う。どのようにすればイベントが開催できるかということを、この会議で議論ができればよいと思っている。
13		・ 例えば、アルコールを出すイベントがあるときに、まずアルコール券を1人何枚までというふうに出して、アルコールを抑えることはどうかと思ったところである。
14		・ 空手世界大会は、人数制限を行い、抗原検査などを活用し、感染対策を行い、管理を行っていた。全島エイサーまつりは、屋外のため、様々な入口から入れるので管理が難しいが、入口の制限を行い、感染対策を行えば、開催は可能ではないか。
15		・ イベント会場での飲食が感染を広げやすいのであれば、別会場を設けて入場制限のもとでライブ配信で見られるようにし、飲食も限られたエリアで、人数を制限するなど考えてもよいのではないか。

## 第2回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

### 各構成員からの意見

番号	区分	意見の内容
16	その他 (ワクチン接種の推奨 について)	・ ワクチン接種の回数が多ければ多いほど症状は軽く済み、感染が広がらないことが分かっているので、ぜひ経済界の皆様には、ワクチン接種を推奨することが、経済活動を再開させる一番の近道だということをコロナ対策として取り組んでいただきたい。
17		・ 高齢者のワクチン接種に関しては、市町村に任せるだけではなく、手が届かないところは県が支援していくことについては、非常に心強い。
18		・ ワクチン接種を推奨することが経済活動を再開させる一番の近道であるということであったので、経済界に持ち帰り、進めていきたい。
19		・ 前回も十代のワクチン接種が低いという話があった。子供たちが接種することにより、高熱が出て、仕事を休まざるを得ず、休むことにより収入が得られないというようなことが、一部保護者にあると聞くので、企業の方の理解も必要である。
20		・ 3回ワクチン接種をした人が、感染したが、二日ほどで高熱が下がり、三日目には平熱に下がったと聞く。ワクチン接種の必要性、重要性をもっと周知する必要がある。
21	その他(アプリ・検査 キットについて)	・ 陽性者登録のアプリであるが、うまく登録できなかったり、登録できたと思っていたらできていなかったり使いにくいと聞いている。また、検査キットで検査しようにも購入できない、高額となっているとの話も聞いている。このようなことも検討していく必要があるのではないか。
22		・ 検査キットがあれば自分で検査をし、病院に行くことを少し控えるということが出来る。それにより、病院の回転が安定するのではないか。検査キットを手軽に購入できるようなシステムづくりが必要ではないか。
23	その他(病床確保に ついて)	・ 現在病院の病床が逼迫していることから、施設内で陽性者がでても施設内療養せざるを得ない状況であるが、施設から陽性者が出たときにすぐに入院させることができれば、感染拡大が止められるので、入院できる病室を確保して欲しい。

## 第2回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

### 各構成員からの意見

番号	区分	意見の内容
24	その他(感染者の実態について)	・感染者数の実数というのは、正直分からないと思う。身近な実例であるが、家庭の中で一人が感染し、家族間で次々感染していくが2人目からは、病院にも行かず陽性登録もしない。結局6人家族の中でコロナ陽性としては登録は1人だけだったという例もあり、こういった例は結構多いのではないか。
25		・感染者数は、実際にはもっと多いのではないかという話は私も聞くことがある。
26		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内で一人が感染し濃厚接触者になった場合、陽性者よりも自宅待機期間が長く仕事を休まなければならない。陽性者の症状が軽ければ、濃厚接触者は仕事に行くこともあると聞く。また、小規模な飲食業は、1人が休むと、人手が足りなくなるので、陽性でもマスクをすれば大丈夫だから出てくるようにとの話もあり、結果、従業員や客に感染を広げている部分もあると思う。</li> <li>・そのようなことが、公共交通のダイヤ制限や、職場での時短や、営業ができないことなどに繋がっていると思う。</li> </ul>
27	その他(感染対策の普及啓発について)	・従業員を守るということであれば、使用者側もしっかりと考え、使用者側も労働者側も安易な考え方や発想にならないよう、きちんと感染対策を、職場内で指導するなり、或いは広報するなりやっていただければよいと思う。